

「LINK」〜常盤祭に参加して〜

本校中学部は、常盤中学校との交流を大切にし、今年も「常盤祭」に参加しました。

体育会の綱引きでは、パワーあふれる中学生と息を合わせ、力いっぱい引っ張りました。

校友会企画では、常盤中学校の先生をあてるクイズに全校生徒の前で回答、正解し、嬉しそうにガッツポーズをした生徒や「ぼく、常盤中学校(の生徒)になりたい」とつぶやいた生徒もいました。中学生が協力し、

主体的に創り出した時間の中で心から楽しみ、憧れも持ったようです。

音楽会では常盤中有志の皆さんと「野に咲く花のように」を演奏しました。リハールから一緒にできたことで心強く安心して発表できました。

常盤祭後、常盤中の生徒さんからメッセージをいただきました。「体で楽しさを表現している人がたくさんいて、見ているこっちも楽しくなってきました!!」



は真似できない交流になりました。常盤祭のテーマ通り「LINK」し合ったひとときでした。(永井 英子)

お互いに相手の姿から感じ、心動かされたのでしよう。中学生同士が触れ合うことで生まれた、決して大人になりません。

的なことかもしれませんが、この合唱が小布施中学校の先輩から後輩へ脈々と受け継がれる素晴らしい伝統であることを改めて教えて頂きました。

このように教師から教えられる事だけではなく、子どもから子どもへ受け継がれる学校独自の伝統を守るために、教師として何が出来るのか、ということは今一度考えていきたいと思えます。(橋渡 憲明)



的なことかもしれませんが、この合唱が小布施中学校の先輩から後輩へ脈々と受け継がれる素晴らしい伝統であることを改めて教えて頂きました。

子どもから学ぶクラス合唱の伝統

小布施中学校

私は、教員生活初めての文化祭を経験するに当たり、様々な事を子どもから学びました。その中で一番心に残ったことはクラス合唱です。私自身、一年生の担任として合唱指導をしなければならぬ中、右も左も分からない状態で、子ども達もただ何となく合唱をする日々が一月ほど続きました。

ある日、三年生の合唱を学級で聞く機会がありました。全員が堂々と立つ姿、女子生徒が必死で大きな声を出す姿、男子生徒の重厚感ある歌声、そして何より素晴らしいハーモニー。それを聞いた私のクラスのある女

子生徒が帰る際、「明日から私たちもパート練習をやりましょう」と言ってきました。彼女の中に明確な目標ができ、自分達の合唱で足りないことを見つけ、どうすれば解決できるか考えた結果、その発言に結びついたのだと思います。それから徐々に「しっかり立って歌おうよ」「もつとはっきりと強弱をつけたらどうか」と子ども達の中で自然と議論するようになりました。三年生の合唱をお手本とし、自分たちの合唱に生かそうとする子ども達の姿に感銘を受けました。

「真似る」から「学ぶ」。基本

各校の教育活動特集

PTA親子交流会

日滝小学校

今年度日滝小学校では、「二人一人が自分らしく生き、人と人として大切にされるために、人権感覚を高めることを目指して」をテーマに家庭と学校とが連携して様々な行事に取り組んできました。その中で、新たに「PTA親子交流会」が二回にわたり実施されました。

一回目は、地域の中にある「中村醸造」さんを講師に招き、親子で味噌造りに挑戦しました。大豆を潰し、塩と麴を混ぜ、仕込む行程を親子で体験しました。「おいしくなあれ」と声をかけ合い、親子で作業を楽

しむ微笑ましい姿がたくさん見られました。今ではすっかり熟成し、おいしくなりました。味噌を使った料理が食卓を彩り、楽しい会話が弾んでいます。

二回目は、囲碁ボールやワンバウンドラバールバレーなど、体と頭を使う楽しいニュースポ



料理が食卓を彩り、楽しい会話が弾んでいます。

ツに挑戦しました。さわやかな秋



子どもたちは家庭で大切にされ、学校でも温かく育まれる。そうすることで、一人の人間として自分らしく生きていくようになるのだと思います。これからも様々な学校行事を通して、子どもたちを育てていきたいと思えます。(佐藤 利恵)

中学校で音楽会

栗ガ丘小学校

今年度より、栗ガ丘小学校の音楽会を小布施中学校の「鳳凰アリーナ」で開催させていただきました。小学校体育館が手狭であることや、よりよい演奏環境、中学生とかわる機会をより多くするというのが主な理由です。

練習は、小学校体育館で行い、前日練習から本番を鳳凰アリーナで行わせていただきました。慣れ親しんだ体育館での発表ではなく、反響板やロールバックチェアのある素晴らしい施設での演奏発表は、児童にとって、

緊張感もあり、また、歌声や楽器の響きのよさを感じる上で絶好の場となりました。中学三年生の迫力ある混声三部合唱を間近で聞くことができたことも大きな成果でした。児童からは「ステージが広くて声も響いて歌いやすかった」「中学生の歌が素敵だった」「お客さんがいっぱいいて、がんばろうという気持ちになった」などという声が聞かれました。

保護者の方からも「よく響いて素敵な演奏でした」「高い所からステージの後ろに並んだ子

も見ることができました」という感想をいただきました。



いろいろな配慮をいただいたりし、大変感謝です。大成功の音楽会でした。(長田みゆき)

本校の宝⑦

豊丘小学校

「豊丘の地で伸び伸び育つ子ども達」

本校の宝というお題をいただいてあれこれ考えてみましたが、豊丘小学校の宝は、「豊丘の地で伸び伸び育つ子ども達」であることに気づきました。

全校七十名の小さい学校です。子ども同士よくわかり合って仲がいいです。そして、清掃・班遊び・カレー作りなどの縦割り活動を通してさらに親しさを増し、休み時間もいろいろな学年が集まって遊ぶ姿が見られます。



さらに本校の子どもたちのすごいところは、持久力です。体力テストの「200mシャトルラン」では、どの学年も全国平均よりかなり高い成績を

出しています。その理由の一つは、毎日坂道を登下校しているためと考えられます。地区によっては、朝七時前に家を出て、三キロあまりの長い上り坂を雨の日も雪の日もひたすら歩いて登校します。そして学校に着くとすぐに遊び出すエネルギーには、いつも驚かされます。こうして驚異の心肺機能が培われているのです。

また子ども達は、地域の皆様のお力で豊かな学習をさせていただいています。

学校でお借りしている広い畑では、きゅうり・トマト・なす・ポップコーン・大豆・さつまいもなどたくさんの野菜を育て、食育に焼き芋大会にと活動が広がります。

年に一度の講座体験学習「園里っ子」では、地域作り推進の会や保護者の皆さんなどの協力を得て、おやき作りやそば作り、切り絵、木工など多岐にわたる講座で体験学習をしています。

このように、長い坂道も自分の力にかえ、豊かな自然と地域の皆様の支えにより伸び伸び育っている子ども達が本校の宝です。(山下 文代)



た。命を大切にしようとする子どもたちにとっては苦しい決断でしたが、お蚕さんの※幸せについて話し合う中で、「このクラス全員で命の責任をとりたい」という意見もあり、みんな

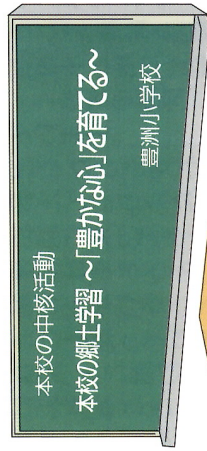
なで決めたことでした。この学習で大切な命の学習ができたことは、子どもの書いたお別れのメッセージからも明らかでした。

本校の郷土学習では、郷土への理解と郷土愛を育んでいるだけでなく、「豊かな心」を育てているように思います。

学校の周りをはじめ、須坂には多くの郷土素材があります。郷土に根ざした教育に向けて、私自身も、地域研究に努めていきたいと思えます。

(三井 龍介)

※飼育した蚕は一代雌種であるため、次代の形質や生産している会社にとって商品であるという点を配慮しました。



十月に行われた音楽会の後、「洲の子匠援団」の方が一緒に教室で給食を食べていかれました。その後、お礼にということで、子どもの頃の豊洲小での生活や、お蚕さんについてのお話をしてくださいました。地域の方が、自然と子どもたちに郷土の話をしてくださることのありがたさと、本校の、郷土に根ざした学習のよさを改めて感じました。

三年生では、須坂にある養蚕の歴史から、蚕の飼育を通した学習をしています。担任も生きている蚕を見るのは初めてというところから、子どもたちと一緒に活動してきました。養蚕というものについては伝えてきましたが、子どもたちとしては、糸をとるという目的ではなく、一つの命として大切に育ててきました。そんな子どもたちは、先日、生まれた卵を土に埋め、お蚕さんとお別れをしまし